

「秋田美人」の肌経て 化粧品に「お墨付き」

会社社長 野澤 一美さん



出身は埼玉、バブル期の東京で不動産金融会社に勤めた。語学留学に行つた米国・テキサス州で結婚。そんな女性が「秋田美人の肌」を売り物に06年、化粧品の安全性や有用性を確認する会社を秋田市に設立した。インナーフェイイス社長、野澤一美さん(43)だ。

「敏感肌対応」「目にしみない」といった表示の裏付けのための確認試験をする。既に大手化粧品会社など10社以上から仕事を受注。500人いるという被験者の肌の変化などを調べる。



日本人の被験者を集めるアルバイトだった。日本人被験者のいる同業他社はなく、日本の大手化粧品会社との商談も任された。地元の州立大学を00年に卒業した後、正社員になりアジア担当部長に就いた。03年退社。化粧品コンサルタントに転職した。

同時に、製造物責任法、薬事法改正にもなる化粧品の全成分表示の義務づけなど、いずれは欧米並みの需要が予想される日本での安全性などの確認試験の商機もかかっていた。

そんな折、秋田で公務員をしている友達の一人から、県の外郭団体が創業支援をしていることを知り、応募。「秋田美人」の話聞いたタラス在住のプログラマーの米国人の夫(40)も「美人の名産地なんて聞いたことがない。いいキーワードだ」と起業を後押ししてくれた。

06年6月、正社員1人と始めた会社は1年半で新たに3人を雇うなど業績好調。仕事の少ない秋田だからこそ、モニターは集まる。人件費も、家賃もお手頃。欧米のライバル試験機関並みの低価格が実現できたと自負する。白人並みの色白の人が多い「秋田美人」の肌で、欧米発売前の商品テストを出来ないかなどと夢は膨らむ。会社が大きくなっても、本社は秋田でかまわないという。ただ、「日本にも欧米にもゲートを開いた商売をしたい」。

2008年(平成20年)
1月30日(水)
朝刊

朝日新聞